



# 岡田 実 新館長

## 着任インタビュー

平成28年6月1日より、岡田新館長と共に山口県立美術館は新たなスタートを切りました。皆さまに山口県立美術館のこと、そして館長の想いをご紹介します。

— 館長になられて約4ヶ月が経ちましたが、いかがでしょうか？

館長になると初めて聞いた時は、ただただ驚きました。前任の二井館長はとても尊敬する方で私にとって恩師とされている方なので、「(次が)僕で本当にいいんですか?」という率直な気持ちとプレッシャーも感じました。

ただ、美術館と自分の関係を振り返ると、入庁して間もない頃の開館でしたので、当時のことを鮮明に覚えています。色々な方が開館の準備をされたり、歴代の知事や関係者の方がこの美術館をよりよい施設にしていこうとご努力されていたのを間近で見えたので、就任するにあたってとても光栄な気持ちでした。

— 山口県美のよさをご紹介しますとしたらどんなところでしょうか？

たくさんあって困りますが(笑)、何よりも素晴らしい所蔵作品とその作品を魅力的に、面白く魅せる展覧会を創り上げる学芸員は自慢です。また、地域の方々との繋がりがやえがあるからこそ、成り立っている事業も多く、感謝の意を感じると共に、よさであると思います。

さらに、エントランスから広がる景色、カフェの空間、亀山公園の緑もおススメのロケーションで、複合的によさが合わさり、山口県美の「美術館力」になっていると思っています。

— 126号発行にあたり、読者の方へメッセージをお願いします。

この「天花」というタイトルですが、山口市内の地名であり、ここにはかつて雪舟が居住した雲谷庵が所在していたと言われています。また仏教用語で「天花」は、天の花の如く妙好な花をさします。これは山口県立美術館が、美の花の天花の咲き揃う殿堂となってほしいという願いをこめたタイトルと聞いています。



山口市生まれの下関育ち。県庁では主に企画畑を歩き、長期計画策定や市町村合併推進などに携わる。副知事などを歴任した後、この6月より県立美術館長に就任。

まだ足を運んだことがない方には、ぜひ気構えずに、気軽にショップに買い物に来たり、お子さんを連れてカフェでお茶したりでも構いません。まずは美術館を身近に感じてほしいなと思っています。ファンの方には引き続き、特別な日にも美術館を選んでいただけるようなそんな場所でありたいと思っています。

# 2016 - 2017 schedule

山口県立美術館 平成28年度スケジュール

	展示室 A	展示室 B	展示室 C	展示室 D	展示室 E	展示室 F
9	7/12(火)~10/13(木) 〈おんな〉のイメージ —戦後日本写真に見る女性—	7/12(火)~10/13(木) 抽象画のたのしみ	8/16(火)~9/25(日) 江戸から明治へ —19世紀の日本絵画— 9/27(火)~10/30(日)			
10			ロマンと前衛 —20世紀前半の日本画—			
11	10/18(火)~2017/1/22(日)	10/18(火)~2017/1/22(日)	11/1(火)~12/4(日) 雪舟			
12	山口県立美術館 静物部	香月泰男と宮崎進	12/6(火)~2017/1/22(日)			
1			西・禽・トリ			
2	1/24(火)~4/9(日)	1/24(火)~4/9(日)	1/24(火)~2/26(日) 没後70年 兼重暗香			
3	福田勝治の「イタリア紀行」 —Travel in Italy—	シベリア・シリーズ	2/28(火)~4/9(日) 野田神社所蔵 毛利家の能面と能装束			

**Information**  
**■休館日**  
 月曜日(祝日・休日の場合は開館)、年末年始(1/2から開館)  
 ※ただし、**ファーストマンデー** 特別展開催中の第1月曜日は開館。  
 展示替期間 2016年10月14日(金)~17日(月)、12月19日(月)~2017年1月1日(日)、1月9日(月)~20日(金)  
**■開館時間**  
 9:00~17:00(入館は16:30まで)  
**■料金**  
 コレクション展: 一般300(240)円 学生200(160)円  
 ※ ( )内は20名以上の団体料金。  
 ※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する生徒は無料。  
 ※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。  
 特別展: 別途定めた料金



山口県立美術館  
 Yamaguchi Prefectural Art Museum  
 〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1  
 TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790  
 http://www.yma-web.jp/

f 美術館情報をFacebookで紹介しています

Yamaguchi Prefectural Art Museum

山口県立美術館ニュース「天花」

# 126

Contents

- コレクション展
- 福田勝治の「イタリア紀行」 —Travel in Italy—
- 没後70年 兼重暗香
- 野田神社所蔵 毛利家の能面と能装束
- 特別展
- もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris
- 日伊国交樹立150周年記念 世界遺産 ポンペイの壁画展

HEART2016  
 新館長着任インタビュー  
 年間スケジュール



福田勝治 《イタリア紀行：ボンペイにて》 山口県立美術館蔵

Collection

## コレクション展

# 福田勝治の「イタリア紀行」 —Travel in Italy—

## 2017 1/24 四 — 4/9 日

表紙作品解説

福田勝治 《イタリア紀行：ボンペイにて》 1955年  
ゼラチン・シルヴァー・プリント 山口県立美術館蔵

太陽の照りつけるボンペイの遺跡を背景に、軸の長いパイプをくわえた老人。ちょっとくたびれたジャケットを羽織りハンチング帽をかぶった姿はなかなか様になっています。右手をこちらに伸ばしているのは、カメラのレンズを自分の方へと向けさせたのでしょうか。「遺跡よりも俺を撮りなよ。」こんな声が聞こえてきそうです。

福田勝治(1899-1991)は、戦前戦後を通じて活躍した防府出身の写真家です。静物や女性をモデルとしたポートレートで名を挙げ、戦後、土門拳らにより社会の現実を写したリアリズム写真が隆盛する中であっても、一貫して己の信じる美を追求し続けました。

そんな彼がキャンノン・コンテストに応募して推薦を獲得し、ヨーロッパ旅行に招待されたのが1955年のこと。選んだ行先は、青年時代からあこがれ続けた国、イタリアでした。約45日かけてイタリア各地を周り、撮られた写真はなんと5000枚余。これには本人も呆れたとか。「美の海水浴へ出かける」とは、ある詩人がイタリアへ赴くことを表した言葉ですが、「イタリア紀行」と題された写真群からは、まさに水を得た魚のようにいきいきとカメラのシャッターを切る写真家の感動と興奮が伝わってきます。

(学芸員 矢追愛弓)

山口県立美術館ニュース「天花」第126号 平成28年9月発行 編集 指定管理者サントウバーブリックデザイン・スペースグループ 発行 山口県立美術館 印刷 愛蔵社写真印刷株式会社

## コレクション展

### 展示室C 山口ゆかりの知られざる逸品

特別展示 なかなかお目にかかれない貴重な名品を、どうぞお見逃しなく。

## 没後70年 かねしげあんこう 兼重暗香

館藏品、近隣施設、および個人の所蔵作品を中心に、約15点を展示予定。



兼重 暗香 《梅にかささぎ》(部分) 昭和5年(1930) 山口県立美術館蔵

2017年1月24日(火) → 2月26日(日)

兼重暗香(1872-1946)は、現在の山口市矢原に生まれ、明治から昭和期にかけて活躍した日本画家です。両足の不自由や、経済的苦境を乗り越えるべく、自立した女性を目指して、「画家」という生き方を選んだ暗香。やがて神業と称されるほどの花鳥画の名手として、中央画壇で名を馳せる存在となりました。

本展ではその人柄を凝縮したような、清々しく凛とした作品の魅力を、山口市近郊に伝わる作例を通してご紹介します。

## 野田神社所蔵 毛利家の 能面と能装束

2017年2月28日(火) → 4月9日(日)

明治維新の元勳、長州藩13代藩主毛利敬親公を祭神とする野田神社(山口市)には、毛利家伝来の能面・能装束が多数保存されています。このたびは当神社のご協力のもと、珠玉の品を厳選して特別公開します。能の舞台を彩る豪華絢爛な能装束と能の面に秘められた、幽玄の美の世界と江戸時代の工芸技術の粋をご堪能ください。



白地七宝鉄線唐草文様唐織 野田神社蔵

## 第10回山口県総合芸術文化祭 HEART2016

平成28年9月23日[金] — 10月10日[月・祝]

今年10回目を迎えるHEART2016は、創始以来70年の歴史を誇る山口県美術展覧会を核として開催いたします。会期中は、美術館(美術)と、街(日常生活)をつなぐためのイベントを企画し、「ものづくり」とそれを通じた「コミュニケーション」の楽しさや大切さを伝えていきます。



■ **ファッションデザイナー浜井弘治、和紙をプロダクトする。**  
「デザインとは、先人の知恵を未来につなげていくもの」。下関市に拠点を置くファッションデザイナー浜井弘治氏の、デザインやものづくりに関するコンセプトを、和紙を素材にしたプロダクトの展示やイベントを通して紹介します。

【会場】山口県立美術館 エントランスホール  
【会期】9月23日(金)～10月10日(月・祝)  
【入場料】無料 【特別協力】株式会社 小澤

■ **デザイナー浜井弘治、「着る」の未来を語る。**  
【日時】9月24日(土)14:00～(約30分程度)  
【申込】不要。開始時間までにミュージアムショップ付近にお集まりください。

■ **和紙布で作るトートバッグ～ふれる、おる、たむ**  
浜井氏オリジナルの「和紙の布」を用いて、トートバッグを制作します。

【日時】10月8日(土)①10:00～12:00 / ②14:00～16:00 各回10名  
【会場】山口県立美術館 講座室  
【講師】浜井弘治氏  
【参加費】1000円 【申込】事前要申込

■ **よしながこうたくライブペイントショー in 山口県美**  
【日時】9月24日(土)・25日(日)  
両日とも13:30～(2時間程度)  
【会場】山口県立美術館 講座室  
【対象】幼児～小学生  
【定員】両日とも40組80名程度(申込先着順)

■ **かんたん工作コーナー**  
【日時】9月24日(土)～10月10日(月・祝)  
までの土・日・祝 10:00～15:30  
【会場】山口県立美術館 ロビー  
【参加費】無料～100円(材料費)  
【申込】不要(なくなり次第終了)  
【内容】オリジナル缶バッジや回転のぞき絵「ゾートロップ」づくり、折り紙でハートづくり

■ **県美展アーティスト交流企画**  
**吉村大星ワークショップ「色鉛筆でりんごを描こう」**  
【日時】9月24日(土)10:00～13:00  
【会場】クリエイティブ・スペース赤れんが  
【対象】高校生以上 【定員】20名程度

**お申し込み方法** イベント名・参加者の氏名・年齢・住所・電話番号を記入の上、**FAX(083-925-7790)** または美術館WEBサイト <http://www.yma-web.jp/event/> からお申し込みください。  
※記入いただいた個人情報はそれぞれのイベントに関する業務以外には使用しません。

## 第70回山口県美術展覧会

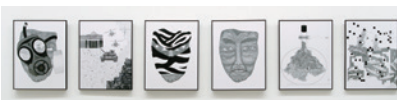
平成28年9月23日[金] — 10月10日[月・祝]

休館日 9月26日(月) **ファーストマンデー** 10月3日(月)は開館  
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)  
観覧料 一般500(400)円 学生400(300)円 ( )内は20人以上の団体料金  
※70歳以上および18歳以下の方、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に在学する方等は無料。

会場 山口県立美術館

ジャンルの枠などの制限がなく、自由な表現の作品が魅力の山口県美展。展示室いっぱい創作意欲あふれる作品たちと共に、会期中行われるワークショップやギャラリートーク「自作を語る」などもお楽しみください。詳しくは、県美展要項が美術館ホームページをご覧ください。

● **審査員**  
佐藤 時啓(写真家、美術家、東京藝術大学美術学部教授)  
島 敦彦(愛知県美術館館長)  
外館 和子(美術評論家、愛知県立芸術大学ほか兼任講師)



● **特別展示**  
昨年度の大賞受賞者、深田佳心氏による新作を展示します。

第69回山口県美術展覧会大賞受賞作品  
深田佳心(山口市)〈ボクラノユクエ〉

## 特別展

## もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris

2016年 11月7日(月) — 12月11日(日)

**ファーストマンデー** 11月7日、12月5日は開館

観覧料 一般1,200(1,000)円/シニア・学生1,000(800)円  
コレクション展セット券(当日券のみ)一般1,300(1,100)円/学生1,100(900)円

【主催】山口県立美術館、毎日新聞社、tysテレビ山口  
【後援】在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本 【協力】日本航空 【企画協力】(株)プレートラスト  
【特別協力】エフエム山口 【特別協賛】エルクホームズ株式会社

1900年、ベル・エポック(良き時代)と呼ばれる華やかな時代にパリで結成された「ソシエテ・ヌーヴェル(画家彫刻家新協会)」。エドモン・アマン＝ジャンやアンリ・ル・シダネル、アンリ・マルタンなど新進気鋭の画家たちが多く所属したこの会は、20世紀初頭のフランス美術界を代表するグループでした。印象派を受け継いで光の表現を追求し、親しみやすく穏やかな彼らの作風は、商業的にも批評的にも成功をおさめたのです。しかし、同時期のフォーヴィスムやキュビスムといった前衛的な芸術運動が後に重要視されていく中で、穏健な彼らの活動は顧みられる機会を失っていったのです。

本展は、近年再評価が進んでいるこの「ソシエテ・ヌーヴェル」の画家たちに光を当て、その足跡をたどるものです。自然の風景や人々が、詩情豊かに親しみを込めて描かれた作品の数々をお楽しみください。



エミール・クラウス《リブ川の夕陽》  
1911年、油彩・カンヴァス、個人蔵/協力パトリック・ドゥロン画廊  
Collection particulière - Courtesy Galerie Patrick Derom  
Photo © Galerie Patrick Derom



アンリ・マルタン《野原を行く少女》  
1889年、油彩・カンヴァス、個人蔵



アンリ・ル・シダネル《テーブル、白の調和》  
1927年、油彩・カンヴァス、  
パリ市立現代美術館蔵  
Fonds Municipal d'Art Contemporain de la Ville de Paris,  
Photo © FMAC / Roger-Viollet

## 特別展

日伊国交樹立150周年記念

## 世界遺産 ポンペイの壁画展

LA PITTURA PARIETALE ROMANA A POMPEI

2017年 1月21日(土) — 3月26日(日)

**ファーストマンデー** 2月6日(月)、3月6日(月)は開館

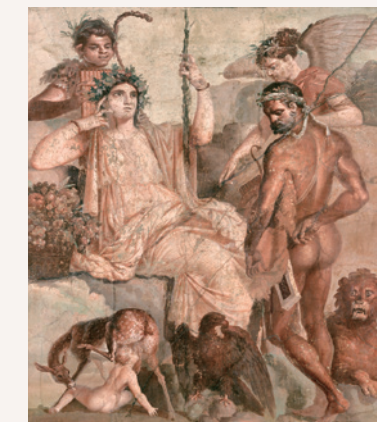
## 幻の街、ポンペイ

今から2000年前のイタリア。栄華を極めていた古代ローマを揺るがした大惨事が、ヴェスヴィオ火山の大噴火と周辺都市の消滅でした。一昼夜降り続いた火山灰と押し寄せた火砕流が時代を瞬時に閉じ込め、ポンペイの街は長い眠りについたのです。歴史から消え去った幻の街、ポンペイが再び人々に知られるようになったのは、18世紀半ばのこと。発掘された品々は、ローマ帝国の繁栄を現代に伝える驚くべきものでした。

本展では、世界遺産にも登録されているポンペイの遺跡から、古代ローマ人の住宅や公共建築を飾った壁画をご紹介します。2000年の時を経て現代に蘇ったポンペイの壁画は、歴史的、考古学的、そして芸術的に、まさに“奇跡の絵画”。これまで門外不出とされてきた貴重な作品をとおして、古代ローマに花開いた豊かな芸術文化をご堪能ください。



赤い建築を描いた壁画装飾  
前1世紀 ポンペイ監督局蔵  
©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo



《赤ん坊のテレフォスを発見するヘラクレス》  
後1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵  
©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo



《踊るマイナス》  
後1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵  
©ARCHIVIO DELL'ARTE - Luciano Pedicini / fotografo